

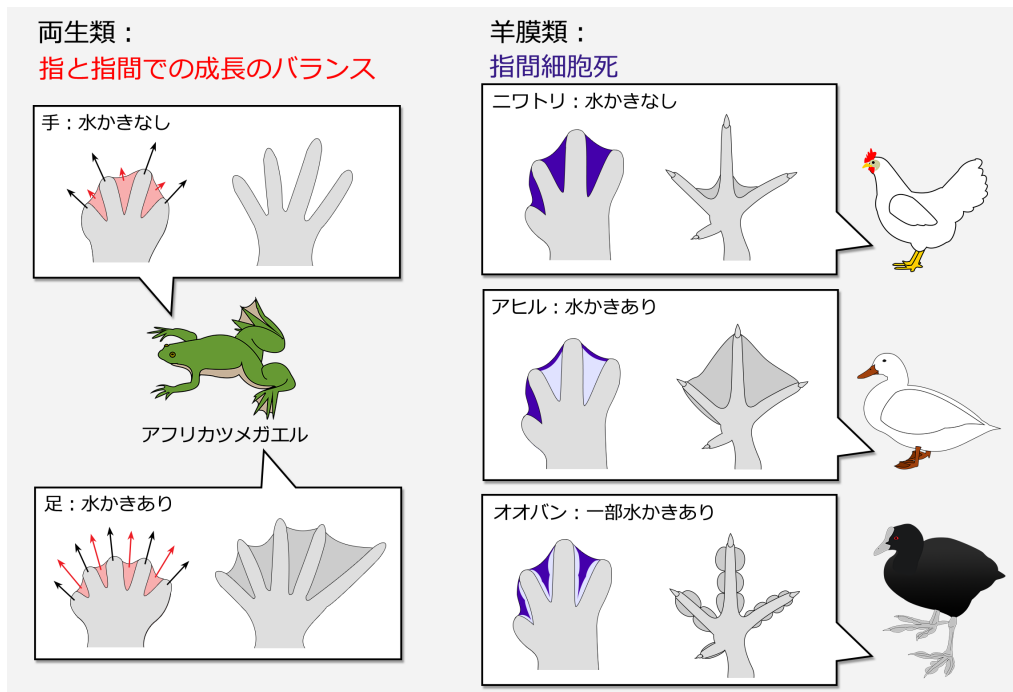
環境中の酸素に起因する四肢形態の進化

講師：田中 幹子 先生

東京工業大学 生命理工学院 准教授

日時：2020年6月29日(月) 16:30-18:00

生物は様々な環境に応じて、発生プログラムを変化させることで体の形を進化させてきた。我々の研究室では、脊椎動物の付属肢（対鰭や四肢）を題材に、形態進化を生み出す発生プログラムの変化を理解することを目的に、様々な脊椎動物胚を用いた研究を展開している。生物の形づくりを担う発生プログラムは、ゲノムに書かれた遺伝的要因に加えて、温度変化、酸素濃度、乾燥、重力などの外的要因によっても変化する可塑性を示す。四肢動物の行動パターンや生息域の多様化に直結する手足の形態パターンの変化は、顕密な遺伝的制御を受けて生じるが、その一方で、ゲノム配列とは関係のない外的要因によっても手足の形態は大きく変化することがわかっている。本セミナーでは、遺伝的要因による形態進化に関する研究に加え、環境中の酸素に起因すると思われる四肢形態の進化に関する最近の研究の成果についても紹介したい。



世話人：理学研究科生命理学専攻 日比正彦 (内線5198、hibi@bio.nagoya-u.ac.jp)

参加希望者は、事前に連絡してください。Zoom URLをお知らせします。

(理学研究科生命理学専攻博士前期過程の学生：アドバンス生命理学特論1としてNUCTに情報を掲載予定)